

第2回 回想する新人 ～論文式試験前アドバイス編～



受験生の皆さん、こんにちは。勉強ははかどっておりますでしょうか。

今回は、論文式試験直前のエピソードやアドバイスについて、筆を執らせていただきます。

私は2回、論文式試験を受験しました。1回目は5・8で挑んで、見事に撃沈しました。そのときの反省点の一つに、**試験1か月前の過ごし方**が挙げられると私は考えています。予備校に通っている方は共感してくださると思いますが、直前模試が終わると試験までの1か月間、答練も何もない期間が生まれます。その期間をどう過ごせば良いのか、論文初心者の私にはわからなかったのです。自分の弱点、不足論点を把握し、ダイレクトに対策できれば良かったのですが、答練

の成績も振るわなかった私には何もかもが足りていませんでした。そのため、1日でやることがパッとせず、なんとなく暗記物をパラパラ眺めて時間を過ごし、気づいたら覚えられていないことばかりのまま本番当日になっていました。

今思うと、A論点を一つでも多く、一字一句暗記する勢いで頭に叩きこむのが良かったのかもしれませんが、知っている論点を増やすよりも、A論点の問題を本番の答案で書けるように、暗記の精度を上げるような勉強ができたなら良かったと、振り返って思います。

そうして私の5・8挑戦は失敗に終わり(皆さんは絶対に成功させてくださいね!）、また1年間勉強しました。本番1か月前の直前模試の頃には上位合格を狙えるレベルまで仕上げました。2度目の答練のない1か月がやってきたときに私が心がけていたことは、とにかく本番でミスが出る要因を徹底的に潰すことでした。プレッシャーで押しつぶされないように毎日外に出てリフレッシュしていましたが、暗記の精度が落ちないように、忘れるのを防止するためにテキストや問題集は計画的に毎日読んでいました。計算についても、思考が鈍らないように総合問題を解くこともあれば、ケアレスミ

スを防ぐ意味でひっかきに特化した個別問題を解くこともありました。自分がどのような要因でミスをするのかを自覚し対処すること、それを積み上げて本番で自分の実力をすべて出し切れるようにすることに注力するのが、過年度生にとっては重要なのではないかと私は考えます。

私の経験談は以上ですが、論文式試験を受ける全員に当てはまることを最後に一つだけお伝えして締めたいと思います。それは、試験前日に眠れなくても焦ってはいけないということです。急になんだそりゃって感じですけど、本当に寝付けないんですよ、これが。寝付けないで焦って、余計に眠れなくなってコンディションを崩すというのは、論文を受ける誰にでも当てはまるリスクだと思います。私も普段通り23時に寝ようと布団に入ったのですが、ストレスでいろんなことが頭をめぐり、結局眠れないまま目を閉じて意識が薄れるのを待っていました。皆さんにもそんな寝付けない夜がこれからあるかもしれません。でも、そこで焦る必要はどこにもありません。貴方は十分戦えます。

皆さんの合格を心から祈っています。頑張ってください。